

市民説明会（平成30年11月30日～12月21日開催）

1 開催日、会場等について

開催日	開催時間	会 場
11月30日（金）	午後6時	常磐多目的研修センター
12月5日（水）	午後3時30分	啓南多目的研修センター
	午後6時	道営住宅であえーる緑幸団地集会所
12月6日（木）	午後3時	上芦別多目的研修センター
12月7日（金）	午後2時	北日本多目的センター
	午後6時	本町地区生活館
12月10日（月）	午後3時	野花南生活改善センター
	午後6時	総合福祉センターふれあいホール
12月11日（火）	午後2時	頼城多目的研修センター
12月21日（金）	午後6時	新城多目的研修センター

2 参加人数

296名（男性180名、女性116名）

3 開催内容

- (1) 市立芦別病院の経営問題等について
- (2) 行財政改革の検討状況について
- (3) 意見交換等

3 各会場の主な内容について

市立芦別病院の経営問題等について	
質問・意見等	市の回答
<p>●市立芦別病院の外来の1日の人数はどのぐらいなのか。</p> <p>●芦別は魅力がないから医師が来ないのか。</p> <p>●市立芦別病院の運営の中で、一番経費がかかるのは何か。</p> <p>●今後も人口減少や高齢化が進んでいく中で、高齢者がどんどん増えていくので、市立芦別病院にケアハウスを設置し、収益を上げることが可能かどうかお聞かせいただきたい。</p> <p>●外科の医師がいないと、手術ができず、交通事故でも救急車の受け入れができない。外科の医師を呼ぶことは至難の業なのか。</p>	<p>●診療科が多い日では、250人～300人ぐらいです。木曜日は診療科が少ないので、150人～200人ぐらいです。</p> <p>●以前は、大学の医局からの派遣というシステムで、定期的に医師の派遣がありました。今は医局制度が崩壊し、大学からの派遣がない中、色々と募集を行っていますが、道外の医師は、北海道は給料が高いというイメージを持たれており、給料の面ではなかなか折り合いが付きません。また、最近の医師は都会志向であり、札幌や旭川などでは、突出して医師数が多くなっています。さらに、外科や整形外科では、一年を通じて自宅で待機していなければならない、いつ呼ばれるかわからないなどのリスクがあるため、複数名の医師が勤務している病院でなければ勤務したがるというのが現在の実態です。</p> <p>●医師数は少ないですが、入院体制を維持するため、看護師、薬剤師などスタッフの人件費に一番経費がかかっています。その次は、薬品費、診療材料費等となります。</p> <p>●専門スタッフを抱えなければならないので、市が行うには収益は上がりません。市内では、民間事業者がケアハウスやサービス付き高齢者住宅を運営していますが、今後、医療・介護・福祉などの総合的な市民サービスを提供していくうえで、必要であれば対応していきたいと思っています。</p> <p>●外科の医師の確保については、緊急性があることも十分承知しており、様々なチャンネルを使って努力をしています。特に、旭川医大とは、スポーツ医科学と合宿との関係から、今年の2月に医療連携協定を締結していますので、医師派遣の要請を引き続き行っていきます。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●医師の確保など、今まで努力してきた内容についてお聞かせいただきたい。</p> <p>●病院の関係になるが、芦別の人口が平成 15 年に 20,238 人であったのが、平成 29 年には 14,112 人となり、6,000 人ぐらい減っている。患者数では、平成 15 年に 175,169 人であったのが、平成 29 年には 59,799 人となっており、人口の減少よりも患者の減少幅が大きい。この原因を市の方では検討しているのか。また、市立芦別病院の病床数と稼働率の状況、その空き状況に対しての考えをお聞かせいただきたい。</p>	<p>●現在も旭川医大と札幌医大を中心に、医師の派遣要請を行っていますが、これとは別に独自の制度として、平成 24 年に医師の修学資金貸与制度を設け、現在まで 4 名の方に貸与しています。修学資金を貸与した医師には、貸与した年数分、今後、市立芦別病院で勤務していただくこととなりますが、医師になるには、大学の医学部で 6 年間、その後に初期研修や後期研修を受けるなど、医師になるまでとても年数がかかります。他には、民間の派遣会社を通じて、嘱託医師を採用した経過もあります。現在は、医局制度の崩壊により大学に行っても医師がいないため、東京方面にも紹介を受けにっていますが、北海道内では、札幌以外の勤務は難しいのが現状であり、医師の確保には、まだまだ時間がかかると感じています。</p> <p>●患者数の減少は、医師の減少が最も大きな原因です。平成 15 年に内科医師が 7 名であったのが、現在は 3 名程度なので、単純に考えても 3 分の 1 ほど減ることになります。主な原因では、外科や整形外科の常勤医師が不在となったため、手術が出来ないことで、この 2 科だけでも多くの患者が減っています。外科、整形外科を中心に医師確保の活動をしているのですが、特に外科や整形外科のほか、小児科、産婦人科などの命のリスクを伴う診療科を選ぶ医師は少ないと言われています。医師数は毎年増えていますが、例えば眼科や皮膚科等に進むことが多いので、医師の地域偏在と診療科偏在が一番大きな問題であり、市立芦別病院に来ていただける医師がいないのが現状です。病床数の関係では、当初は 220 床で 5 つの病棟があり、それぞれが満床になるような状況でしたが、医師の減少に伴って患者数も減少し、現在では、3 階の全ての病棟と 4 階の東病棟は使用しておらず、4 階西 53 床と 5 階西の療養 31 床、あわせて 84 床が稼働している状況です。許可病床数としては 129 床ですが、45 床が休床となっています。これについては、整形外科等の医師が来た場合に復活させたいと考えていますが、稼働病床数が 84 床でありながら、実際には 60～70 人程度となっていますので、病棟を再編して、少しコンパクトな病院にしたいと考えています。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●市立芦別病院を無くさないことが一番ですが、滝川市立病院でも赤字を抱えて患者数をいかに増やすかという記事を新聞で見ました。広域な範囲で一つに合併する等、恐らく抜本的な改革をしない限り、市立芦別病院の存続というのは不可能に近いのかと思います。</p> <p>●市立芦別病院について、市長から市民の健康と命を守りたいと話があったが、現状を維持できるのかという大きな疑問がある。果たして今の形の市立芦別病院が本当に必要なのかどうか、あるに越したことはないが、抜本的な問題があるのではないかと。例えば、中空知圏域の中核病院が砂川市立病院であることから、バス等の交通手段も確保したうえで、サテライトとして市立芦別病院を診療所とするなど、根本的に今の形態を変えていくような考えはないのか。</p> <p>●市立芦別病院は、人口が少なくなり、医師が少なくなったとのことであるが、赤平と比較した場合、赤平は芦別よりも人口が少ないはずであるが、人口が少ないから経営が厳しいということばかりではないと思う。赤平には、公的な色々な施設があり、患者も増えるし、医師もいるということを考えて時に、なぜ芦別はこのような状況になっているのか。一概に人口が減ったからといって片付けていいのか。</p>	<p>●中空知には6自治体病院（芦別、赤平、滝川、砂川、歌志内、奈井江）がありますが、患者が医師数の多い砂川や滝川に集中してしまうと、全ては対応ができない状況になりますので、現在は、それぞれの地域で、それぞれの病院ができる最大限のことを行いながら、診療科のない部分や高度な医療になった場合は、砂川や滝川にお願いしています。今後も人口減少が続く中では、患者も減少していきますので、この先も今の状態を継続していくのは難しいことから、外部委員を含めたあり方検討会を立ち上げ、議論していきたいと考えています。</p> <p>●まずは、現状の市立芦別病院の体制を維持したいと考えていますが、国の経営アドバイザー等の力を借りながらも、経営の健全化の基準をクリアできない事態になった場合には、次の展望として、ご意見があったような選択肢を取り入れていかなければならないと思っています。現状においても、常勤医師の5名はハードワークとなっているため、病棟再編や病床の削減も考えていかなければなりませんが、経営の健全化基準をクリアできない場合には、国の管理下に入る選択肢も改めて考えなければなりません。</p> <p>●医師が少なくなったのは、平成16年から始まった臨床研修制度が大きな原因です。新たに医師になる方は、臨床研修を受けなければならないこととなりました。制度が変わる前は、大学を卒業後、その大学で自分が専門とする医局に残り、キャリアを積んでいましたが、制度が変わってからは、大学卒業後はすぐに臨床研修病院へ行ってしまいうため、大学から医師を派遣する供給システムが途絶えてしまったというのが一番大きな原因です。芦別・赤平についても、臨床研修病院として、新人の医師に来ていただき、自分たちで医師を育てていたのが平成16年からのことです。市立芦別病院では、今まで5名の方を受け入れて、そのうちの1人は市立芦別病院に残り、内科の医師として数年間働いていたことがありましたが、ここ最近の都会志向により、札幌や旭川の大きな病院に勤務したいというのが実態であり、定着はしていません。なぜ赤平に医師がいるのかというお話では、市立芦別病院は、赤平よりも早くに臨床研修病院の要件を満たさなくなりましたので、新人の医師が来なくなったことのほか、元々副院長を含めて3名の外科の医師がおりましたが、赤平よりも早くに定年退職の時期を迎えたためです。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●市立芦別病院は、必ず毎年収支不足になっているが、人件費の抑制等は何も入っていない。適正な人員なのか、給料が高いのか、収入に見合った分しか本来ならば払えないはずである。市から毎年3億円、4億円の補てんを受け、やっと運営しており、いわゆる自転車操業である。一般の企業であれば破綻である。人件費を抑制しないと改善なんてあり得ない。</p> <p>●整形外科では、富良野の方からバスが来て送り迎えをしている病院があり、かなりの患者が市外に流れているため、医師確保に努力願いたい。</p> <p>●病院の規模では、例えば診療所にした場合、救急に対応する部分はどのようにするのか。かなり大きく変化しないと対応できないような気がするが、我々市民に影響のないようにどのようにすれば良いのか考えてはいるが、そのような状況をお聞かせいただきたい。</p>	<p>●病院への支援は、市民の皆さんの命や健康増進のためであり、これには税金を投入してもやむを得ないと思っています。しかしながら、これからはそれにも限度がありますので、人件費も含めた経費の抑制が必要と考えています。公立病院の宿命としては、救急医療などの不採算部門も抱えなければならないことから、国からも一定程度の助成を受けていますが、100%の助成ではありませんので、その赤字は市から出さざるを得ませんが、これにも限界がありますので、新たな対応策などにより、抜本的な改善を図っていきたいと思います。普段の経費の抑制を行うことは当然ですが、収入に見合った支出として、人件費にスライドしていくことは、一概には言えない部分も公立病院にはあることをご理解いただきたいと思います。</p> <p>●市立芦別病院には、外科と整形の常勤の医師がいません。一番必要だと思われる常勤の整形外科がいないことは、市民の皆さんに一番ご迷惑をお掛けしていると思っています。現在も、大学や各方面に対して、医師確保の努力は一生懸命行っていますが、今後も医師の確保には、最大限努力いたします。</p> <p>●病院としては、まず医師がいなければ始まらないというのが現実であります。そのことも含めて、今後、外部の方も入れながら、市立芦別病院のあり方検討会を立ち上げ、いろいろな意見をいただこうと思っています。病院の規模については、例えば診療所にするとすれば、救急や透析の対応の問題があります。現に透析の患者は50名ほどいるほか、救急も全て市外の病院に任せるわけにもいきません。また、市内には老健施設やサービス付き高齢者住宅もあり、そこに入所されている方の病気を市立芦別病院で診ていますが、市立芦別病院が機能を果たさなければ、全て市外で診てもらわなければなりませんので、医療だけでなく、介護や福祉などの部分でも大きなご迷惑をかけることとなりますので、このようなことも踏まえながら、病院の規模やあり方を考えていかなければならないと思っています。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●今の市立芦別病院の赤字が3億3,000万円とのことであるが、来年度から1億円しか補填できないと言っているが、どのように改善するのか。また、1億円で今までどおりの医療体制は組めるのか。</p> <p>●市立芦別病院をこれ以上続けていくのが無理であれば、赤平と合併することはできないか。滝川と合併したのでは、距離がありすぎるので、赤平ぐらいならいかがか。思い切ってやることをやって、赤字をなるべく減らしていかなければ、都合の悪い人は他のまちへ移って行けるが、農家の人はどこにも移れないし、施設でも何でも、赤字が出るのであれば、どんどん潰していくべきである。</p> <p>●今の医師が減るということはないのか。</p>	<p>●今までは、前年度の資金の不足額を医業収益で割り返した資金不足比率が20%を超えないようにするために、経営支援を受けていましたが、今後は、その資金不足比率にかかわらず、運転資金として必要となる1億円のみを補てんとなります。ただし、20%を超えないように努力しますが、超えた場合には、国の指導のもと、財政健全化法に基づく経営健全化計画を策定しなければなりません。しかし、この計画を策定しても、特に市民の皆さんに対する影響はないと考えています。医療体制については、今までどおりの体制を考えていますが、現在も銀行から一時的に資金を借入れながら運営していますので、今後も資金繰りには配慮しながら、何とか今の医療体制を維持していきたいと考えています。</p> <p>●現状の医師体制の中で、何とか救急も含めた医療体制を組んでおり、内科、泌尿器科、循環器科のほかは、出張医という体制ですが、市民の皆さんの健康や命を守るという視点から、基本的には地場で公立病院としての機能を持たせていきたいと考えています。一般病床では、しっかりとした急性期の医療の対応、また、療養病床や地域包括ケア病床では、慢性期の対応を行っていますので、現状では、このような受け皿的な部分だけは、しっかり努めていきたいと考えています。しかし、今の医師も大変ハードワークになっているため、ある程度の病床数も減らすなどの病棟再編を含めながら、現状を維持したいと思いますが、市の補てんにも限りがありますので、今後の経過をみながらしっかり対応していきたいと思います。その延長線上では、赤平との合併という可能性もゼロではないと思っていますが、まずは、土台の再建に努力していきたいと思います。</p> <p>●現在の常勤医師というのは、大学からの派遣ではなく、既に大学を離れて市立芦別病院に来ていますので、定年までは勤務していただけたと考えています。整形、皮膚科、眼科の出張医も継続してお願いしており、来年の4月には、新たに内科の医師が来ますので、今よりももう少し充実した診療体制になると思います。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●先日、旭川に入院されていた方が芦別に帰ってきて、施設の空きがなかったため、市立芦別病院にお世話になることができたが、空いている病床があるのであれば、そういった受入れを行うことによって、待ち時間も短くなり、利用者も増えるのではないかと。</p> <p>●芦別のように、他の公立病院も全て赤字なのか。</p> <p>●芦別の医師一人当たりの患者数は、他の病院よりも多いのに、どうして赤字なのか。</p> <p>●市立芦別病院は5階までありますが、現在どのような状況になっているのか、入院患者数などをお聞かせいただきたい。</p>	<p>●市立芦別病院は、4階に53床の急性期病棟、5階に31床の療養病棟というのがあります。3階が空いている状況になっており、4階の東病棟は、以前は産婦人科病棟でしたが、現在は老健に転換し、すばるに貸している状況です。病院で施設を運営するには、介護士等のスタッフのほか、リハビリ等の施設も必要になるため、コストの関係から実施していませんが、今回の対応策にある病院のあり方検討会の中で、そのような提案があれば、検討していかねばならないと考えています。</p> <p>●赤字をどこのラインで引くかということにもなりますが、通常の診療部分では、道内の公立病院は全て赤字です。</p> <p>●診療単価の低い診療科が多いということです。市立芦別病院では、泌尿器科を除き、外科や整形外科といった手術がある診療科の常勤医師がいないので、患者数が多くても診療単価が低いのが現状です。例えば、心臓や脳の手術では、診療単価が高くなっていますが、そのような診療科はないので、患者数は多くても診療単価が低いことから、収益が少なくなっています。</p> <p>●1階、2階は外来、検査、人工透析で使っています。3階以上が病棟になります。3階は元々東病棟、西病棟、手術室という形で、外科、整形外科のフロアでしたが、今はこれらの45ベッドを休床しています。4階は元々西病棟と東病棟がありましたが、東病棟は、すばるに貸しているものの、実際には使われていません。西病棟は一般病棟として、急性期の患者が入る病棟として53床ありますが、一部、10床だけは地域包括ケア病床として、ご自宅に帰る準備をするような病床があります。5階については、元々50床あった大きな病棟でしたが、今は31床の療養病棟として、慢性期の方が入る病棟となっています。通常、急性期と言われる一般病棟については、大抵の病院では、2～3週間で退院や慢性期の病棟に移ることになると思います。この慢性期については、症状が安定しているお年寄りの方が多いですが、病院と施設のちょうど中間のような病棟です。合わせますと、84のベッドが稼働していますが、実際に入院されている方は、60～75床ぐらいであり、常時10床ぐらいは空いている状況で推移しています。外科や整形外科の入院患者がいないことから、ベッドが空いている状況になっています。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●市立芦別病院の経営支援は、平成31年度から1億円にするという話だが、どのように節減するのかを言っていない。入院や外来は多いが、外科や手術がないから売り上げが減っている中では、4年間で経営支援は4億円しかできないとあるが、4億円を超えてしまった場合は、誰が責任を持つのか。1億円と決めたところ2億円になったので、追加で1億円を出すことになるのか、それとも看護師などの人件費を削るのか、そういう方策がないと絵に描いた餅になってしまう。全道のどこの公立病院も赤字であるし、黒字のところはないというのは聞いているが、ずるずるやっているから、芦別の29年度の一般会計からの繰入金は7億5千万円にもなっている。これを1億円にすることが歯止めになるものなのか、超えた場合には誰が責任を持つのか、責任の所在をはっきりさせることは考えているのか。</p> <p>●赤字が出た時に、職員の人件費や補助金の削減など、結局、病院のつけを市民が背負う、全体で背負わなければならなくなる。だから、背負うものは背負うし、病院はなくてはならないが、何が一体問題なのかがあまり伝わってこない。本当に市立芦別病院の経営を改善する方向に向いているのか。削減も病院のことなので、あまり削減しすぎるのもどうなのかと思う。医療と教育というのは、人口を減らす方向に走ってしまう。僕らの周りでも、砂川や旭川に行く人が多いが、市立芦別病院には戻らないと思う。</p>	<p>●病院を潰さないという方針を持っています。芦別の現状では、公立病院を無くすことはできません。なぜなら、民間病院がそれを担うことはできないからです。今後どのように残すかということ、あり方検討会や国の支援を受けながら、検討していきたいと思っています。1億円を支援するのは、民間で言うところの資金ショートのことであり、支払いができなくなって倒産につながるような事態を避けるためにも、様々な事務改善、病院の経営の改善を図っていこうと思っています。1年目に2億円を超えた場合は、市立芦別病院は潰れることになりしますので、その時には、どうしても支援せざるを得ないと思っていますが、この計画は4年間の計画ですから、当然4億円の中の前倒しをした分だけ、急いで改革をして、それがもし芦別の中で完結できないのであれば、北海道や国からもしっかりとアドバイスなり支援を受けながら、進めていきたいと思っています。1億円で足りるのかは、私どもも不安に感じていますが、4年間の中で4億円にしっかりとおさめるようなことを、ぜひ、皆さんと一緒に検討したいと考えていますので、よろしくお願ひします。</p> <p>●医療機関を選ぶのは、市民の皆さんの色々な事情がありますので、隣のまちの病院に行くこともあると思いますが、今の芦別に求められているものは、医療、介護、福祉、保健、自分の健康づくりを含めての総合的な体制であります。市立芦別病院は芦別の医療を守る要であり、介護や福祉の施設と連携を図っていけば、市民の皆さんの利便性も高まり、安心感も高まると思います。今回は、病院の問題がクローズアップされていますが、今後、公立病院を残す際に、自分たちの日々の生活の中で重要となっている介護、福祉、子ども達の教育など、全体的にバランスをとっていくのが大事だと思っていますので、このような役割も持てれば、市民の皆さんから応援もしていただけだと思いますし、急性期で他の病院にかかったとしても、芦別で療養しながら老後を過ごしていくなど、今回は基盤作りとして取り組んでいけるものと思っています。今後も皆さま方のご意見をいただきながら、しっかりと行財政改革に取り組み、まちづくりを進めていきたいと思っています。</p>

質 問 ・ 意 見 等	市 の 回 答
<p>●月形町が診療所化を検討しているという新聞記事を見ました。芦別だけではなく、他の市町村も同じようなことを考えているのがわかるが、市民の病院なので、せめて時間外での受診など、程よく受け入れてくれるような病院であってほしいと思う。</p>	<p>●市立芦別病院の現体制の中では、宿直が可能な医師は4名しかいません。労基法の一般的許可基準では、宿直は週1回、日直は月1回が限度となっていますので、4名の医師だけでは対応できない状況であることから、半分以上は札幌や旭川等の医師にお願いをし、出張で来ていただいている状況であります。来ていただいている医師は、内科専門や外科専門の医師であるため、日によっては、病状にあった専門の医師がいる場合と専門外の医師が対応する場合がありますが、時間外の受診については、出来るだけ対応していきたいと考えています。</p>

行財政改革の検討状況について

質 問 ・ 意 見 等	市 の 回 答
<p>●老朽化した公共施設については、廃止ということですが、カナディアンワールド公園を廃止しても借金は毎年返済しなければならないので、これを何とか活用して、収益を上げるということは難しいのか。</p> <p>●行財政改革を行い、いくらまで削減していくなどの目標のようなものがあれば教えてほしい。</p> <p>●上芦別生活館を上芦別多目的研修センターに統合する予定とあるが、これはいつからなのか。</p> <p>●行財政改革は、何かを削ることばかりで、市民の感情としてはマイナスのイメージが強い。市民が希望を持てるようなものがなければ、芦別市は廃れていくだけではないのか。</p>	<p>●カナディアンワールド公園の借金については、公園の用途を廃止したとしても、平成 38 年まで、毎年 1 億 7 千万円程度返済しなければなりません。カナディアンワールド公園のテナント会の皆さまと市との懇談の中でも、公園内の建物が老朽化のため危険な状態になっているので、平成 31 年度末をもって公園を閉鎖させていただきたいとお話をしています。いずれにしても、建物が危険な状態であり、建物を全て建て直すとなると多額の費用が必要なことから、活用は難しいと思っています。</p> <p>●平成 30 年度では、12 億円の留保資金（貯金）がありますが、このまま推移しますと、平成 34 年度末には 1.1 億円までになってしまうことから、行財政改革を進める中で、平成 34 年度末に最低限度 6 億円以上の留保資金を確保できるような目標をもって、この改革を進めていきたいと考えています。これとあわせて、平成 35 年度以降には、例えば、100 億円の支出になるとすれば、収入も 100 億円の確保ができ、収支が整うような行財政運営も目標として考えています。</p> <p>●上芦別生活館は老朽化のため、一定の時期に閉鎖したいと考えています。平成 32 年 3 月末までは、今のままで使えるような形で維持したいと思いますが、利用者の方々には、説明をしてお話を伺える機会は設けていきたいと考えています。</p> <p>●削減ばかりでは希望がないというお話をいただきましたが、決して後ろ向きな考え方ではありません。このような状態にあっても、まちを守り育て、次の世代にしっかりと繋げていくのが宿命であり、その責任を持っています。今我々が何をしなくてはいけないのか、意見を出し合って考えていかななくてはならないタイミングだと思っています。したがって、今後は縮小と充実、いわゆる縮充を図っていかねればなりません。どのような形でまちとして繋げていくことができるのかということについては、今後ご意見をいただきたいと思います。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●説明を聞いた中では、市民が芦別にこれからも住んで良いと思うことが何もない。もう少し市民に期待を持たせるようなことをお願いします。</p> <p>●市として大変な状況であることは認識した。市民が負担する部分は資料に載っているが、市の職員も一生懸命頑張っていると思うが、市の職員、議員については、どのように考えているのか。</p> <p>●行財政改革の検討項目で、公共施設管理運営や事務事業の民間委託化とあるが、平成26年3月に野花南小学校が閉校している。閉校する以前から、後利用のことを市に話をしているが、なかなか話しは進んでいない。閉校してから今年で5年目となるが、どんどん老朽化していくので、何らかの見直しはあるのか。</p>	<p>●今回の行財政改革は、決して市民の皆さん方が委縮をするという、後ろ向きなお話して受けとめられるのは本意ではありません。この先には必ず展望があり、希望もあり、未来があると思っています。今、行財政改革を行うのは、芦別のまちづくりの出発点であり、改革の次には必ず成長に繋がりたいと思っています。そのためには、人口減少が続く中でも親となる世代をしっかりと確保し、出生率の向上を図ること、さらには、市内で調達できるものは市内で買い物をするなどの地域の経済循環が必要であります。私たちの務めとしては、この芦別を次の世代に繋げなければならないことであり、そのための基礎作りが必要となりますので、この行財政改革は希望に繋げるためのものでもあります。受け止め方はそれぞれあると思いますが、例えば、福祉の施策を少し減量するとして、その減量した分を子育て支援や健康づくり等に再構築する、重点化するなど、このような工夫をしなければなりませんので、必要なことを我慢いただくこと、ご面倒をおかけすることもあるかもしれませんが、前向きな意味合いで捉えていただきたいと思います。市民の皆さんと一緒に考えていただいて、作り上げていくことで、まちづくりを進めていき、芦別を次に繋げていきたいと思っています。暗い話ではなく、ぜひ前向きなお話だと受け止めていただければ幸いです。</p> <p>●全体として縮小しますが、市民の皆さんの生活はしっかりと充実をさせなくてはいけないということで、形は小さくなりますが、中身はしっかり充足させるということを基本に考えて、行政のスリム化を図っていかねばならないと思っています。人件費についても、市職員の数のことも含めて、抑制せざるを得ないと思っております。議会については、コメントを申し上げる立場にありませんが、それぞれの立場の中で将来を見据えてどうあるべきなのかということは、広く議論させていただければと思っています。</p> <p>●旧野花南小学校は、行革項目の市有地や遊休施設等の売却の中で検討しており、昨年は2回ほど公売の手続きを取りましたが、売却には至っていません。今後も売却する方向で考えています。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●市の職員の減員だが、平成 16 年から 71 人も減らしており、大丈夫なのか。減らせば良いという問題ではなく、議会の人数に目を向けて、議員を減らしたら良いと思う。</p> <p>●カナディアンワールド公園は、ただ廃止するのではなく、年間 1 万人ぐらいの来園者がいるので、クラウドファンディングを活用して、アンの家を建て直すなど検討してほしい。</p> <p>●全体の経費の削減をしなければならないので、一番手っ取り早いのは、人件費の削減である。労使一体となって痛みを伴わないとできないが、そうしなければ乗り越えられない。この財源不足を解消できなかつたら、市民の税金を薄く長く被せるのか。</p> <p>●老朽化した市営住宅等の除却を進め、維持管理費用の削減を図るべきである。</p>	<p>●職員の 71 名の減は、人口の減少が要因の一つにもなっていますが、一番大きな要因は機械化です。今まで職員が手作業で行っていたものを、機械化、システム化することによって、職員の減員にも至っています。</p> <p>●カナディアンワールド公園は、老朽化によって建物がかかなり危険な状態にありますので、安全上の観点から、施設の閉園の決断に至ったことをご理解いただきたいと思います。アンの家についても、建物を抜本的に改修した中で、どこか別の場所に移設する方法をとっていかなければ難しいこと、また、クラウドファンディングで費用を全額調達するというのも難しいと思われ、市の財政そのものも非常に厳しい状態にありますので、この施設を残していくことは難しいと思っています。</p> <p>●人件費の削減については、民間企業と同じく、労使の交渉というのが前提のうえで削減が可能になります。これについては、独自の削減を模索しているところであり、職員労働組合との協議を行っているところです。この労使の協議が整った際には、平成 31 年の 4 月以降の削減に向けて、議会に条例提案を考えています。また、この計画にあるものを全て実行しても、平成 34 年度に収支が均衡するような財政状況にはなりません、何とかこの 6 億円を保ちながら、これが仮に出来ないとしても、市民の皆さんに直接負担を求めるような、税金を上げる、使用料・手数料を過去のように 1.5 倍にするなどのようなことは考えていません。この計画は、平成 34 年度までですが、毎年見直しを行いながら、目標に達していない場合には、新たな取り組みなどを検討していきたいと考えています。</p> <p>●一番空きが多い公営住宅は、西芦別・頼城地域の改良住宅です。空きが多い棟は、1 か所に集約しながら、順次計画をたてて解体していくなど、将来の維持管理費の負担を抑えていく取組を進めています。本町地区も人口が減ってきていますので、溪水町のすみれ団地もかなり老朽化していることから、あけぼの団地の空き地に建て替えを行っていくなど、順次、公営住宅の集約を進めています。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●百歳になったからといってお祝金というのは必要ないと思う。これだけ高齢者が多くなっているのに、子どもや若者にお金を使った方がいい。それから、例えばあるパークゴルフ場では、作ったのはいいが、1年ぐらいしか使用しておらず、その後は草刈だけやっているようなところがある。市長が憎まれるかもしれないが、世の中変えていくには、先のことを見据えた使い方、切るものは切る、無駄なものを作ることはやめてほしい。</p>	<p>●百歳の祝金については、似顔絵と祝金を贈呈しています。今は人生百年と言われる時代でありますので、これは不要とのことですが、百歳の方には、皆さんでお祝いをしてあげたいという気持ちを持っているところでございます。子どもや若者に投資すべきということでは、本市の昨年度の出生数は36人という、かつてないような少子化の現状となっておりますので、子育て支援は本当に重要だと思っています。将来を見据えたまちづくりをすべきということでは、今回の行財政改革はまさにその事であります。行財政改革の取組みによって、まちの成長や発展に必ず繋がると考えており、広げすぎた風呂敷を少しずつたたむといったようなコンパクト化を図りながらも、市民の皆さんへのサービスの質を高める、充実させるという形に再構築したいと考えています。目先の話ではなく、先を見据えて、将来の芦別のために進めていきたいと思っています。</p>

その他の意見等について

質 問 ・ 意 見 等	市 の 回 答
<p>●私は、病院が無くなるのが一番困ります。市立芦別病院がこれだけの赤字を抱えているので、医師の給料を高くすると、良い医師が来るかもしれませんので、市議会議員の人数を少し減らせば、良くなると思います。</p> <p>●芦別は炭鉱がなくなってから、大きな会社もあまりなくなってしまった。企業を誘致してくるようなことはやっているのか。</p> <p>●胆振東部地震の停電の際、市の広報車のスピードが速くて話が聞こえなかったので改善してほしい。また、防災グッズなどの購入場所も周知してほしい。</p> <p>●健康に留意してなるべく無駄な医療費がかからないように市民として考えなければならないが、今後も高齢化が進むので、なるべく健康でいられるような市民ぐるみのことをやっていくことが大事だと思います。個人的には、夏場に朝のラジオ体操に参加していますが、3年間続けています。そういうことを運動として、ぜひ取り組んでほしい。</p>	<p>●貴重なご意見として、受け止めさせていただきます。市議会議員のお話については、このような意見があったということは、しっかりお伝えをしたいと思います。ただし、議会の議員だけではなく、人口が減る、高齢化が進む、このような厳しい状況の中では、市役所のほか、関係機関や関係組織もスリム化しなくてはならないと思いますので、これらを含めて検討していきたいと思います。</p> <p>●芦別は、自然災害が少ない、地震が少ない、自然の豊かさがある、農産物も含めて良いということと、芦別温泉という北海道唯一の環境省認定の温泉があります。これらのブランド力により、上芦別にある鋼球製造会社が、本社工場を大阪から本市に移転いただき、工場も増設をいただきました。従業員住宅も建設されまして、数十人が大阪から来られています。また、本社は東京の町田市にありますが、芦別に初めてIT企業が旧上芦別保育園跡に事業所を開設しています。人を呼び込む、企業を呼び込む魅力を芦別は十分持っていると思っていますので、今後も大きくPRをしていきながら、企業誘致を頑張っていきたいと思いません。</p> <p>●広報車は、全部で6台を市内に巡回させましたが、出来るだけ早く情報を提供したいという意識もあって、車の速度が速くなり、各地区からも同様のお話もいただいたところでもあります。このようなことは二度とあってはならないことですが、今後、広報車を巡回させるような場合には、公営住宅、改良住宅などのポイントで車を停め、スピーカーを通して伝達したいと思います。また、防災グッズについては、市としては備蓄を行っていますが、市民の皆さんがお求めになる際の購入場所については、改めて周知させていただきます。</p> <p>●本市は、健康都市宣言をしているまちであり、その記念事業として、5月下旬にチャレンジデーを実施しています。これは、全国で取り組まれており、15分間連続した軽いスポーツを行うなど、市民参加のプログラムを組んでいます。ラジオ体操もその一つであり、様々なスポーツを通じて関心をもっていただき、普段の運動に繋げ、健康づくりに励んでいただきたいと思っていますので、引き続き様々な施策等について鋭意努力していきたいと思いません。</p>

質問・意見等	市の回答
<p>●子どもと老人は、土曜・日曜となると必ず具合が悪くなる。夜中に救急車を呼んでも、帰りにはハイヤーが運行していないので、深夜のハイヤー確保をお願いしたい。</p> <p>●中央バスの待合所は本当に寒いです。待合所にトイレやストーブをつけていただきたい。</p> <p>●ふるさと納税はどのようになっているのか。宣伝方法や金額についてお聞かせいただきたい。</p> <p>●今回の胆振東部地震による停電の際、道路を隔てて電気が付くところと付かないところがあり、こちらの町内は付いていたが、仲町の方は不便だったと思う。一般電話も止まってしまったので、安否確認も町内の方々に協力いただいたが、電気がこない不便さというのをつくづく感じたので、せめて電話だけでも通じる方法を考えてほしい。</p>	<p>●ご要請・ご要望をいただきましたので、実態を把握したうえで、多くの要望があるのであれば、事業者にご相談申し上げたいと思います。</p> <p>●現在、バス、JRなどの公共交通を一体で利用できる拠点として、芦別駅の駅前広場を再整備しようと作業を進めています。乗り合い環境の整備や待合環境を整備しますが、トイレはJR芦別駅舎をご利用させていただけると思っています。日中はストーブも焚いていますので、バスやJRをお使いいただいている方々の利便性を高めることと、駅前の商店街を含めての活性化にも繋がっていくと思っています。芦別駅前広場整備については、来年度に実施を予定していますが、この再整備の中で改善を図りたいと思います。</p> <p>●今年から観光協会にふるさと納税業務を委託しています。PRについては、観光協会がホームページ等を通じて行っており、市外の方や道外の方からふるさと納税をしていただける仕組み作りを行っています。金額については、昨年度は3億円を超えており、返礼品の中でもスーツが一番人気となっていますが、夏場には、夏野菜の詰め合わせやメロンやお米等の農産物もそろえています。今年も既に1億円を超えているような状況でありますので、様々な事業に充てられるように努力しています。</p> <p>●今回の停電の際、各町内会長には、手分けをして市の方から連絡をいたしました。固定電話は停電になって繋がらないことから、携帯電話で状況を確認させていただきました。北電への問い合わせについては、復旧後、どのように電気を付けていったのかというのを確認しましたが、市役所や病院など、公共施設があるところを優先的に復旧させたとのことでした。今後、このような事態があってはならないと思いますが、市役所の電話の関係では、アナログ回線が2回線しかなく、町内会には、この番号をお知らせしていましたが、この2回線だけではパンクしてしまいますので、停電時でも電話だけは確保できるように、電話交換機への通電というのは、早急に対応したいと考えています。</p>